

星の子 通信

～チーム星宮のみなさんへ～



H.30.11.1 No.1 2

文責 新井麻起

先生方の活躍ぶりや授業の様子、先生方へのメッセージを載せています。

本校では、学校研究課題として、主題「生きる力」を身に付けた児童の育成～「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善～に取り組んでいます。

校内授業研究の2回目として、10月29日(月)に田島達也教諭による2年の算数科の授業が公開されました。

2年 田島達也教諭 教科 算数 単元名「新しい計算を考えよう」



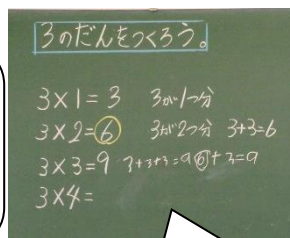
掛け算九九の授業で、2、3、5の段を使い、乗法が1つつ増えるときの積の増え方や、交換法則を理解することをねらいとしたものです。

【2・5の段の復習】

5の段	2の段
5	2
10	4
15	6
20	8
25	10
30	12
35	14
40	16
45	18

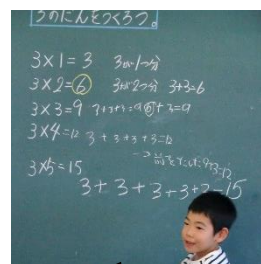
2と5の段の復習をする。

【3の段を作る】



3の段をつくってみて、次の答えをどう求めたか考えさせる。

【3の段の次の答えの求め方】



「僕は3をかける数だけ足していったよ」



「私はかける一つ前の答えに3を足すと次の答えができました。」

【5・2・3の段の】

5の段	2の段	3の段
5	2	3
10	4	6
15	6	9
20	8	12
25	10	15
30	12	18
35	14	21
40	16	24
45	18	27

3の段の答えをあえて順番に書かないことで、児童が「いくつ分か」「かける数」が5の段・2の段と同じ場所にそろえて書くということに気付かせ、かける数が同じときの答えの関係性への話にしていった。

【3つの掛け算の関係性の発見】

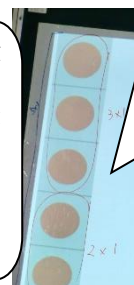


答えに注目させ、3つの掛け算の関係性を問う。



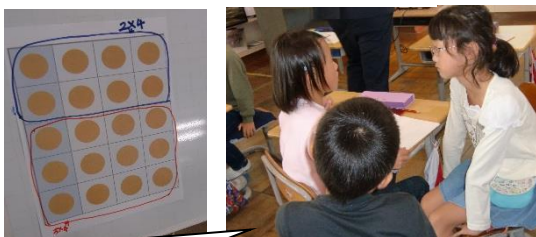
「かける数が同じときは、5の段-2の段=3の段になっています。」

【1×5の違ったやり方の発見】



「 $5 \times 1 - 2 \times 1 = 3 \times 1$ 」になっていることを図を使い、全員で共有し、「 $5 \times 4 - 2 \times 4 = 3 \times 4$ 」になっていることを、考えられるようにした。

【5×4の他の方法の発見】



3×4の答えは、かけられる数が同じときは5の段と2の段の答えをひいても求められることを、ホワイトボードに書き、説明できるよう、班で話し合っている。

【活用した「手立て」】

- ☆課題提示の工夫
- ☆見通し
- ☆ICTの活用(プロジェクター)
- ☆発問の工夫(「なぜ?」「どうして?」自分の言葉で説明)
- ☆学び合いの工夫(3人グループ)
- ☆思考ツールの活用(アレイ図)
- ☆振り返り

【協議内容】

- ☆答えを求めするための道を児童に決めさせ、自由な発想が見られた。
- ☆授業中児童の考えている姿であふれていた。
- ☆一人一人が見通しをもって取り組んでいた。
- ☆自力解決の場、話し合いの場が設定されていたのが良かった。
- ☆授業者：一方向ではなく、多方向から見られるような九九の授業を行って行く。